

巻頭言

変革する社会で ICT をより有効に安全に活用するために

総合情報基盤センター センター長 黒田 卓
(人間発達科学部 教授)

2010 年後半、国内外で情報流出に関する事件が話題となり、「情報」という見えないものの価値とその保全について改めて考えさせられました。国内で発生した「尖閣諸島近海での中国漁船と巡視艇の衝突事故ビデオ流出」と「警視庁公安部保有の国際テロ情報流出」の2つの情報流出事件は、まだ記憶に新しいでしょう。また、「ウィキリークス事件」の衝撃も世界中に影響を及ぼした。デジタル化された情報をどのように取り扱っていけば良いのかを考えさせられる大きな事件でした。情報を流す、漏らすのは人間である。ネットに流れた情報の広がりや速さは、これまでの人間の感覚をはるかに超える。これらを目の当たりさせられました。

年が開けた 2011 年、今度はチュニジアでの民衆の抗議行動を皮切りに中東諸国に大きな改革(革命?)の波が広がっています。これらの動きの背景にも、インターネットのサービスが関係しているようです。中国は同様の抗議行動を事前に察知し封じ込めたらしく、これにもなにかそろ恐ろしいものを感じます。

「クラウド」という言葉が一般にも定着し、次世代の情報基盤として様々なところで利用され始めました。学内でも Evernote や Dropbox、フェイスブックや Twitter、Google ドキュメントや Windows Live などのサービスや、iPhone、iPad、Android 端末などを利用されている方も多いでしょう。これらを利用することで、仕事のやり方(大学においては教育・研究・業務)も大きく変わってきています。

これらを利用することによりさまざまな面で便利になる反面、一人ひとりに「情報」を取り扱う上での責任がより重くかかってくることも忘れてはなりません。例えば Evernote の便利な機能に、名刺をスキャンして作成した画像データを登録しておくと、画像内の文字を自動的に認識し、検索を行うことができるというものがあります。なぜこのようなことができるのか、すこし考えればわかると思いますが、要はデータを送ったサーバで画像解析処理が行われ、抽出された文字データをデータベースに蓄積されているのでしょう。データはどのように蓄積されているのか、それらはどのように使われているのか、誰に見られているのか、同様なことはその他のサービスでも簡単に考えられます。便利なサービスであることは間違いないですが、時にはこのようなことも少し考えて利用していただければと思います。

さて、総合情報基盤センターでは、2011 年 1 月末に情報基盤システムの更新を行いました。2 月には SINET の更新に伴い、外部接続の SINET4 への移行による高速化も完了しました。これまでに比べ、より快適に学内情報基盤を利用いただくことができるようになりました。

新システムでは、これまで 3 キャンパスに分散して運用されていた各種サーバを統合し、より低コストで運用しやすく設計いたしました。これまでお使いいただいている様々なサービスの更新を行うだけでなく、研究室等でプロジェクト用にハードウェアを用意しなければならなかった実験サーバ等を仮想マシン上で利用いただくことができるサービスや、遠隔授業、学外者との遠隔会議をネットが繋がる環境どこからでもご利用いただくことができる Web テレビ会議システム等を導入し、サービスの充実を図っています。同時に電子メールのウィルス検出、スパムメール対策等を行えるシステムも全学的にご利用いただけるようになりました。本学の教育・研究に是非ご活用いただければ幸いです。

システム更新もこれで完了というわけではありません。次期更新は 4 年後に予定されており、すでに 4 年後を想定したシステムのあり方の検討を始めております。総合情報基盤センターも、限られたスタッフではありますが、これら大学の情報化推進のための支援業務及び支援に係る研究に今後もより一層の努力をかさねてまいる所存です。今後とも本学構成員の皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。